

め の と



令和5年12月5日

長崎市立女の都小学校 校長 佐藤和幸

薬物乱用防止教室

11月27日(月)6年生の児童を対象に薬物乱用防止教室を行いました。今回は、教室の明るさや空気の汚れの検査など、学校のより良い環境のためにお世話になっている学校薬剤師の西岡一優先生にご来校いただき、ゲストティーチャーとして薬の安全で正しい使用方法について話をさせていただきました。



最近話題となった「麻薬グミ」や市販薬の大量摂取である「オーバードーズ」など、薬に関するニュースが多く見られます。正しく知ることは、自分自身を守ることにもつながります。薬は用法・用量を守ることが大切ですが、早く風邪を治したくて多めに飲んでしまったという経験はありませんか？薬は正しく使えば効果がありますが、誤った使い方をすれば体に害を及ぼすこともあります。このような基本的なことを再確認する機会となりました。また、たばこ（主流煙や副流煙）を吸い続けることでのどや肺などにタールが付着したり、病気になる確率が高くなったりすることや、違法薬物によって、幻覚・幻聴・いらいら・不安感などの症状があらわれることや、一度体内に入れると途中でやめることが大変難しいという常習性・依存性も大きな問題であることを学びました。

人権学習（3年生）

11月29日(木)長崎県人権擁護委員の方3名ゲストティーチャーを招き、3年生が人権学習を行いました。一人一人の違い（多様性）を尊重することや無意識のうちに持っている固定観念（～らしさ）などに気づくことができた学習でした。また、パーソナルスペースやプライベートゾーンについても学びました。自分自身を大切に思い、身の安全を守るという意識は、子どもにとっても大切なことです。

大切です！目の健康

11月28日、文部科学省が2022年度の学校保健統計調査を発表しました。「健康状態調査」と「発育状態調査」が行われ、幼稚園から高等学校までの子どもの健康状況が明確になりました。

この中で、視力は全国的に低下が進んでいる状況が見られました。視力1.0未満の子どもの割合は、小学生で37.88%、中学生で61.23%、高校生では71.56%と、いずれも過去最多となりました。学年別で見ると、小学1年生は23.20%、小学6年生は53.19%と学年が上がると視力が悪化する傾向が見られました。文部科学省は、視力低下の一因として、スマートフォンやデジタル端末を使う時間が増えたことをあげています。同調査では、30分に1回は目を休めること、目は画面から30cm以上離すことなど、目の健康維持のための工夫の必要性が述べられています。



なお、女の都小学校の今年度の視力検査の結果では、視力A（1.0）未満の割合は、37%でした。ほぼ全国の調査結果と同じ割合となっています。